

人を擁してゐるのである。最近に於ける福岡縣下の工場労働者の動きをみると

昭和八年末 九萬八千四百五十六人

昭和九年六月 十萬一千一百六十一人

と昭和九年に於て二千七百五五人の労働者が八幡製鐵所、神戸製鋼門司工場、小倉工場、福岡渡邊鐵工所その他の軍需品製造工場に雇入れられてゐるのであるが一方福岡職業紹介所事務局の調査によれば、失業者は、三萬人をコエ内救済を要する失業者が二萬であつて、失業者の多いことでは東京に次ぐ、全國第二位にある。軍需インフレによつて各工業は活氣をみせ工場、日備労働者の數が増加してゐるにもかかはらず、失業者が一向減らないといふことは、當該では考へられないことのやうである。

で失業者がへらないこと、否今後尙ほ熟練労働者が失業者としてフェエてゆくのではあるまいかと言ふことにつき炭坑について例をとつてみる。本年七月中に於ける九州山口縣下に於ける石炭坑夫の移動は

解雇された者 八千三百五十二人 雇入れた者 八千二百八十七人

で解雇された者の中、他の坑山に仕事を求めることの出来た者が三八五三人、農村に歸つた者が一千二百四十人そして残りの三七五七人は求むるに仕事がなく失業の飢餓にサラサレてゐるのである。資本家は以上のやうに八三五一人の労働者を炭坑からオヒ出して失業の路頭に迷わせながら、一方には八一八七人の労働者を雇入れてゐる。新らしく雇入れられてゐる労働者は馬車馬の如く溫和しく働き、それに安い賃銀、永い時間の労働に耐へる